

むつみ

発行者 千葉県生涯大学校卒業生学習会 会長 本多靖男

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

学習会の平成二十九年度の取り組みについて



会長 本多靖男

今年度は災害も多く地勢学的リスクも高まった年でしたが、改めて平成二十九年度の当会理事会の取り組みできた課題について、ご説明させて頂きます。

一つ目は、ご案内の様に平成二十九年度が当学習会の発足三十年の節目にあたるため、昨年からの三十周年事業の準備を進め、本年四月の開講式・総会を三十周年記念式典を兼ねて行い、三十周年記念誌も作成し配付しました。

二つ目は、今年度の最大の課題である学習会の会場を来年度から千葉市民会館へ変更する準備に万全をきす事でありました。

(一) そもそも何故、千葉県文化会館(定員千七百名)から千葉市民会館(定員千名)へ変更するのかわですが、

(イ) 毎年度、会員が三百名〜四百名位減少しています。その理由として、

① 母校、生涯大の入学者・卒業生が減少傾向にある事

② 県文化会館が千葉駅から遠く階段や坂があり建物の中もバリアフリーになっていない事

③ 更に高齢者の生涯学習の場が大学や市町村で増え、高齢者の受け皿が多様化している。

こうした会員減少は今後も続くものと考えています。

(ロ) 現在当学習会の会員数は千五百九十九名ですが実際出席する方は約千百名ほどで、千七百名も入る会場は会場費が割高なので身の丈にあつた市民会館に変更することにいたしました。

(二) 会員募集方法の変更

(イ) 募集定員を千三百五十名としました。年々続く会員減少を踏まえ、市民会館の定員を考慮し、定員を千三百五十名(出席率七四%可)といたしました。

(ロ) 継続会員募集に初めて先着制を導入し定員オーバー(定員を超えると毎回座れない方が出てきてしまうので)しないように致しました。

(ハ) 新入会員募集では、学園訪問の入会募集は行わず、抽選で入会を決めます。(入会は継続会員優先とし、新会員枠は〇〜五〇名程度と想定されるため)

会場が狭くなり募集方法も変更し会員の皆様にご迷惑をおかけいたしました。ご理解ご協力の程よろしくお願ひ致します。

三つ目は、数年先を見通した取り組みです。

(一) 経費節減の検討
まず今年度、広報誌「むつみ」の編集・版下作

成・印刷を全て外部の印刷屋を使わず広報部にて作成しコスト削減を果たしました。今後こうした経費削減に取り組んでまいります。

(二) 二つの P T (ProjectTeam) の設置

スリム体質改善を目指し、固定費のウエイトの高い「印刷機」と「事務所」について P T をつくり、改善策について検討してまいります。

学習会副会長に就任して 副会長 松村靖



本年、当学習会は創立 30 周年の節目を迎え 4 月の開講式と同時に記念式典を挙行了したところでもあります。

総会で副会長に就任致しました。よろしくお願ひ致します。

さて今後はどのような様に学習会を企画し運営して行くか未来に向けての様な展開を考えて行くのか、会長が示す方針をどの様に補佐出来るかその責任を重く受け止めているところであります。

学習会は会員により支えられている組織であり会員が学習会に参加して良かったと感じられる組織運営が基本と思います。30周年記念式典で永年学習会に会員として支えて頂いた方(13名)へ感謝状とささやか記念品を準備しお礼をさせて頂きました。本学習会の目的が生涯大卒業生の受け皿として教養の向上、健康・仲間作り等を通じて心理的にも身体的にも刺激を受け自分なりの生き方を創りだすことにあると思ひます。

○ 高齢者の一人として今、私が想っていること

①歳を重ねても体力維持を考える事が大切です。栄養と運動（活動）です。

私は佐倉市健康増進課が主管する食生活改善推進員に4年間参加致しました。それを通して感じたことは年を重ねると高血圧、脂質異常症、糖尿病のいわゆる「生活習慣病」に気をつけてと指摘されることが多くなります。すると食と栄養の面で「あれはダメ、これはダメ」が多くなります。高齢者の低栄養化が最近言われています。

・百五歳まで人生を全うした日野原先生（聖路加国際病院名誉院長）の、お話を聴く機会がありました。（当時101歳 成田山新勝寺にて）

多くのお話を拝聴しましたが食について先生は「ステーキ肉も魚も野菜も量は加減するが何でも食べるとおっしゃっていました。強く印象に残りました。生活習慣病と言う名称も日野原先生の発案と言われています。

・年を重ねても「肉も魚も何でも食べましょう」が私の主張です。

②孤独について考えること

私は現在佐倉市千代田地区社会福祉協議会の理事をやっています。

それに関連して知る多くの情報は地域に於ける高齢者の地域での係わり、独居、安否確認、災害時の対応、居場所づくり等の「孤独」対策に関する事です。孤独に強くなるにはどうあるべきか

（作家 五木寛之先生著「孤独のすすめ」より引用）

「老いにさしかかるにつれ、孤独を恐れる人は少なくありません。体が思うように動かず、外出も

ままならない。訪ねてくる人もおらず、何もすることがなく、無聊をかこつ日々。世の中からなんとなく取り残されてしまったようで、寂しいし、不安だし、人によっては鬱状態におちいりかねない。」

誰もが年を重ねる度に何となく感ずることと思います。

（再び 五木寛之先生著「孤独のすすめ」より引用）

「けれども、年を重ねれば重ねるほど、人間は「孤独」だからこそ豊かに生きられると実感する気持ちがつよくなってくるのです。」

「歳を重ねるごとに孤独に強くなり、孤独のすばらしさを知る。 孤立を恐れず、孤独を楽しむのは、人生後半期のすごく充実した生き方のひとつだと思います。」

孤独に対応して生きて行く生き方を示していると思います。

今後のヒントとして考えたいと思います。

雑感（私の道しるべとして考えること）

今、私の想っていることとして下記の2点を取上げさせて頂きました。

①体力維持 栄養と活動

②孤独へ強くなるには（その対応）

私は学習会の中でこの2点についてより良い方向への行動、ヒントに繋がることが学習出来ればと考えています。又、種々の場面へ参加すること自体が孤独への対応となっています。

最終的には多くの会員に「よかった」「やくだった」と感じて頂ける学習会になれば運営に携わる者として役立つかなと感じています。

学習会場の移転について 事務局長 秋元和信



学習会の会場は、平成二十六年に千葉県生涯大学の制度変更等があつて、会員数が千九百八十五名に急増したため、千葉県文化会館へ

移転しました。

その後の会員数は、平成二十七年の千九百九十名をピークとして漸減し、平成二十九年には千五百九十九名となりました。戦後団塊世代の定年退職時期が過ぎ、千葉県生涯大学の入学者も頭打ちになってきており、当会会員数の減少傾向は今後も続くものと予測しています。

かかる状況を踏まえ、平成三十年から千葉市民会館へ会場を移転し、会運営の合理化を図ることといたしました。以下に新会場における運営をお知らせしますので、ご協力をお願いします。

一 千葉市民会館 千葉市中央区要町一の一

電話番号 043-224-2431

二 時間配分

終了時刻を繰り上げて遠隔地会員の便宜を図るとともに、昼食休憩時間を設けました。

出席受付 十時から十時四十五分

大ホールへは十時から入場可能。

第一講座 十時五十分から十二時三十分

昼食休憩 十二時三十分から十三時五十分

第二講座 十三時五十分から十五時二十分

三 受付要領（通常の学習日）

雑感の総集編

総務部長 田巻正史



受付はホワイエにて、五班に区分けして行います。正面玄関前には屋根のある待機場所はないので、受付開始の十時以降にお出で下さい。

からです。

裏方の吾が身はそうはいきません。当然ながらスケジュールに追われ、何が起るか、常に緊張感と同居しています。せめて、第二の人生は自由に活きたいと思っていたのに、この状況はなんなのだ。

「ストレスを溜めずつくりず持ち込まず」を motto にしていたのに、皮肉にも自身に溜めこんでいました。

でも、楽しさを感じられることもあります。例えば、日頃の思いを紙面にできることです。内容が相応しくないとチェックされるのは致し方ないとしても、そこそこ自由に掲載できる機会をいただけです。

さて、昨今、何処へ行ってもレジで「カードはお待ちですか」と聞かれます。何のカードのことか、後の渋滞を気にしながらカードを探す羽目になります。あーなんてこった、錢単位のポイントを失うことを残念に思う自分が情けない。サクサクとお財布携帯を扱う若者が恨めしい。

孫を連れて近くのスケート場へ行った時のこと、

免許証の提示を求められました。えっ、何故?!それは、市内在住者と市外在住者との入場料に二重の価格が設けられているからでした。

総務部の後半期は、開講式・通常総会の準備で忙しくなりそう。病の 90% はストレスが関わっているとか、ご用心 ご用心

広報部活動と余暇

広報部長 長谷川潔



この度、広報を担当することになりました、長谷川です。広報部は全員入れ替えです。立澤氏・前後氏と力を合わせて会員の皆様と理事との懸

け橋となり、より良い学習会になるように努めてまいります。例年通り年三回「会報むつみ」と「学習会ニュース」を発行します。ただ、去年と違う点は、「一つ目は、学習会方針として、経費削減の実施」今まで、原稿作成・印刷を外部に委託しておりましたが、全て広報部が行う事により、委託費の経費削減に大きく寄与しております。

「二つ目は、タイムリーな情報提供を目指す」九月に行ったアンケート調査の結果報告を、十月の学習会時、配付する事が出来ました。この様に積極的に会員の皆様から得た情報に対して前向きに取り組んでまいります。まだ、歩き始めたばかりですが会員の皆様のお力添えをよろしくお願い致します。

私は、これまで、学習会に参加してきました。そのお陰で沢山の方々と出会い、数々の楽しい経験をすることが出来ました。その経験を生かし、地域で

は「ボトムアップ・コミュニケーション」を大切に、ボランティア活動を楽しんでいます。

また、ボランティア活動の合間には、家庭菜園を健康維持のためのんびりと楽しんでいきます。家庭菜園のお師匠様は、八十八歳のおばあちゃんですが、物凄く勉強家で、自転車で駆け回っています。筋肉のつけ方・十年後に躰かない方法・宝くじの楽しみ方・毎日が元気になる一言、など色々な事を教わっております。お陰さまで、自転車で急な坂も登ることが出来ますし、姿勢もよくなりました。おばあちゃんの「知恵袋」に感謝と皆様との出会いに「感謝・感謝」です。

講師選定のながれ

研修部長 渡邊和夫



ただ今、研修部では来年の講演会講師の選定を進めています。この作業は延々と来年三月まで続きます。そこでこの選考の流れを紹介

します。まずスタートは会員の皆様への講師候補推薦書提出のお願いです。今年度の提出数は、会員約千六百名から二十六枚、理事三十名から四十三枚、計六十九枚でした。研修部員は手分けしてこの六十九枚の推薦書に間違いや記載漏れ、書き加えることがないか、補足調査を行ないます。より多くの正しい情報を基に適正な比較検討を行ないたいと考える故です。さて、来年の講師候補は百三名、これは今年の六十九名に、前年に推薦されたが選外と

なり本年に繰り越された名簿の合算数です。候補者を分野別に一覧表にして、これを基に二十名の講師の選考会議が行われます。一次選考は研修部が十一月に行なって四十名程度に、二次選考は会長以下全部長・研修部員が参加して行い、辞退者も考慮して三十名程度に絞り込みます。これを理事会で審議して候補が決定します。十二月、研修部員は分担して候補者と出演交渉を開始!!...と思いきや講師の連絡先は殆ど不明、斡旋業者に頼めば楽ですがその分費用も嵩むので極力タブー。あっちこっち当たって何とか辿り着いて講演依頼、謝礼を提示したらその後連絡途絶...、この日ならと了解を取付けたら、他の講師と期日が重なって日程変更のお願い交渉...とか、悲喜こもごもの出来事が湧き出ます。また、一〜三月は学習会日程が未定で交渉不能。三月は一日に日程が決まる。開講式の資料印刷日が迫り、尻を叩かれて大慌てのストレス交渉...そんなこんなを乗り越えて年間学習計画が出来上ります。

以上が講師選定の流れとチョッピリ頑張っている？研修部のPRでした。ご高覧感謝！

経理の現状と今後

経理部長 大森秀明



学習会の財務の観点から見ますと、会員数は、平成二十六年度は千九百八十五人、平成二十七年度は千

九百九十三人、平成二十八年度は千七百七十八人、平成二十九年度は千五百九十九人と変わっています。

会員数は二十七年をピークに年々減少しています。昨年度から今年度の会員数は二百人弱減少しています。学習会の会計は単年度会計となっておりますが、会員が二百人減少しますと財源は、百六十万円減少します。そこで来年度より会場を千葉県文化会館より千葉市市民会館へと変更になります。千葉駅より近くなりますので多少は便利になります。経費の方で見ますと千葉県文化会館は年間百万円、千葉市市民会館は年間七十七万円で二十三万円少なくなります。残り百三十七万円は前年度までの変動積立金を充当します。三十一年度以降は、理事が手分けをして、プロジェクトチームを作り経費の縮小を計っています。① 事務所の家賃、② 印刷機のリース代金、③ レジメの印刷方法です。④ 全体の経費削減。しながら現在も工夫をして削減に励んでいます。なかなか削減されていません。これは私の個人的な考えになります。収入が千人以下になった場合は、収入と支出を全面的に洗い直しが必要になります。平成二十六年より毎年度の経費は千二百万円掛かっています。この中より経費削減できる部分は最大に考えて二百万円ぐらいでしょう。後の一千万円は会費で賄っていかねばなりません。会員の減少時の会の財務運営の難しさを痛感しております。現在全理事でこの経費削減に当たっておりますので会員の皆様も、この状況を見守っていただければと思います。現在の状況と今後についてのお知らせをいたしました。



私の俳句修行 事務局長 秋元和信

平成二十二年に千葉県生涯大学校浅間台教室福祉科へ入学して以来、「あさま俳句会」に所属し、俳句を楽しんでいます。当時の先生は森澤照子先生、俳句協会に所属する方で、伝統俳句(定型、季語を活かす、切れの働き、旧仮名遣い)を教えて頂きました。現在は増成栗人先生にご指導頂いています。俳句を始めて五年経過した最近の作品を、

季節毎に紹介いたします。ご笑覧ください。

【新年】

鐘の音の終はるやメール年賀状
初春や富士に向かひて手を合わせ
初風に吹かれ子連れの宮参り

【春】

花の笑み人の笑み満つ目黒川 (目黒にて)
麗かや広場に憩ふ家族連れ
燕飛び通勤の人足ばやに
閑かさやふらここの童の眠りをり

【夏】

鯉幟大口開けて泳ぎけり
風薫る九十九島を巡りけり (佐世保にて)
暁や四葩は濡れて光りをり
二人して青葉時雨を浴びにけり

【秋】

処暑過ぎて肩の荷なきごと身の軽し
爽やかや湖面を渡る風一陣
徳川の屋敷彩る菊花展 (松戸・戸定邸にて)
見晴るかす尾瀬一面に草紅葉

